

岩手県職労

月2回刊=1576号
2021年3月30日 発行
発行日 毎月15日30日
発行所
盛岡市内丸九番1号
岩手県庁内
岩手県職員労働組合
印刷所
盛岡市上田二丁目17-4
有限会社 ジョー印刷企画
一部 40円
組合員購読料は組合費に含む

3・11春闘人事課総括課長交渉

実態踏まえた増員求む

着任時期

感染時の柔軟な対応可を確認

3月11日、県職労は知事に対する21春闘要求書(158項目)を村上人事課長に提出し、次年度の人員配置、超勤課題、会計年度任用職員課題をはじめ、秋の確定闘争からの継続課題などに関する当局の姿勢などを質すため交渉を行った。

【賃金水準】

「職員の給与と制度は基本的に人事委員会勧告に基づいて制度設計し、制度の趣

旨や給与決定に係る原理原則を踏まえて検討。人事委員会に対し必要に応じて制度改善を検討するよう要請しながら対応している。引き続き検討していきたい」と回答。コロナをはじめ大規模災害対応などに奮闘する職員の努力に報いるためにも賃金水準維持・向上は不可欠。モチベーション維持のためにも賃金改善に向けた取り組みを進める。

【諸手当】
高速道路利用者やパーク&ライド時における駐車場の負担解消について、当局は「通勤手当の見直しは遠距離通勤者の負担軽減に資するものと考えている」と言及しつつも改善には慎重姿勢。また、住居手当に関しては、県職員の家庭負担の状況等から人事委員会も勧告を見送った経過があり、引き続き人事委員



▲21春闘要求書を手渡す大崎中央執行委員長(右)



▲交渉に臨む県職労交渉団(左下円内は回答する村上人事課長)

会の動向を踏まえたの消費姿勢にとどまった。継続して改善を求めていく。

【人員配置】

「新採用職員は180人程度。他県応援職員を21人で要請中。ワークライフバランス定数は2月時点で16人を配置。再任用職員は、原則として希望者全員を任用することとし、新規37人、更新93人、計130人」とした。当局は、欠員が9月時点62人と比べ20人程度まで解消を見込んでいるものの、交渉団から震災から10年を迎えて震災復興定数が大幅に減員することによる欠員解消に過ぎず、人員不足は依然として課題であると指摘。現場では復興業務が継続し、かつ通常業務が増加していることから、実態を踏まえた人員配置とともに、土木職等の採用辞退阻止に向けた対策も求めた。

見受けられ、由々しき事態なことから、実態と乖離する当局の姿勢を改めるよう強く求めた。

【沿岸地区の職員公舎確保】
「仮設公舎が撤去されることに伴い、既存公舎に空きがなく入居できない場合は民間アパートを借り上げる」とし、また、異動を伴わない職員への移転料についても、「協議を受け承認された場合は旅費の支給を認める」と確認した。

【会計年度任用職員課題】
現制度では無給の扱いとなっている予防接種の特別休暇について、「ワクチン接種を控える会計年度任用職員も予防接種(法定分)の特別休暇を有給とする」と確認した。また、任用減の弊害を指摘し、人員配置増を求めた。

【今後の取り組み】
一部前向き回答があるも、賃金・諸手当改善、会計年度任用職員への制度詳細のヒアリングを実施中。必要な取り組みの検討を進めるとした。その他、諸手当改善、超過勤務削減、新型コロナ下での勤務環境の改善(休暇制度等)を求めた。交渉団から、賃金・諸手当改善をはじめ依然として具体的な改善となる回答とは程遠いことから、春闘期の最終局面となる3月25日人事院総裁交渉での要求に則した回答を強く求めた。公務員連絡会は、最終局面に向けて闘争を強化していくこととしている。

保障のことなら
まず組合へ

組合員と家族の安心をバックアップ。
生命・医療保障、退職後の保障から
住宅や自動車の損害まで、生活全般
の保障を用意しています。

自治労共済本部
詳しくは所属する組合まで

退任役員紹介

3月31日、2人の本部役員が退任した。退任した中央執行委員はこれまでも評議会運動の前進に全力を挙げていただいた。多くの課題前進に向けてご尽力ありがとうございました。

長い間本当にありがとうございました。



中央執行委員
口岩 喜幸(宮古支部)



中央執行委員
熊谷 剛(胆江支部)

ただいたことに感謝を表し、引き続き評議会・支部・職場での運動前進に向け頑張ってください。長い間本当にありがとうございました。

人事院 勧告時期「例年どおり」検討

3・17公務員連絡会・人事院ヤマ場交渉

3月17日、公務員連絡会(議長・武藤国公連合委員長)は、2021春闘に係るヤマ場の人事院給与局長・職員福祉局長と交渉を行った。交渉団から、新型コロナウイルス禍で厳しい働き方を強いられる職員に報いる賃金・労働条件の改善を求めた。人事院は、賃金は「収益が好調な企業はベースアッ

プも選択肢であり得る一方、収益悪化の企業は厳しい実態。経営側の回答を注視」と慎重姿勢を示した。21人勤に向けた作業は「民間給与実態調査の官民比較方法、企業規模(50人以上)は現行どおり」、「昨年の経験を踏まえ例年通りのスケジュールとなるよう準備を進めている。例年のスケジュー

ルで調査を実施し、結果が得られるように取り組む」とした(5〜6月・民間給与実態調査、8月上旬・人事院勧告)。

不妊治療への支援は、「現在、不妊治療と仕事の両立のための国家公務員向け職場環境アンケートを実施。並行して不妊治療のために使用できる休暇等を設けて

別れの季節を迎えた。コロナ禍が1年以上続くなか、盛大な送別会が見送られるなど寂しい年度末となっている。県政はもとより県職労運動を牽引してきた先輩の皆様に深く感謝を申し上げたい。▼先輩の皆さんが入庁した80年代は県職労運動の最盛期であった。過去の県職労機関紙には先輩の新採用時の紹介のコーナーもあり思わず笑顔も。その機関紙一面は厳しい賃金・職場課題改善に向け果敢に交渉に結集する組合員の姿も。まさに「職場に組合あり」だった。先輩方の退職に寂しさを覚えずにはいられない。▼感慨に浸るのもつかの間、新年度が目前だ。各職場では事務引き継ぎや新職場への着任に向け慌ただしい日々を迎えている。また新採用者約180人が各所属に配属され、新採用職員の加入対策が本格化する。2020年度はコロナ禍で厳しい一年だったが、休暇など徐々に運動成果も表れている。▼2021年度も組合員の賃金・職場改善など私達を取り巻く課題は山積している。諸先輩の意志を引継ぎ、強靱な組織で要求実現を果たすためにも、新採用職員の1日も早い県職労の仲間入りを進めよう。

第五世代

退職者の皆さんありがとうございました

3月となり、今年も多くの先輩、仲間の皆さんが退職されます。

長い期間、県勢発展のため第一線で働いてこられた先輩の皆さんには、県職労の権利拡大や組織強化のため支部や分会、いろいろな場面で運動を支えていただきましたことに、心から感謝申し上げます。組合員・準組合員の皆さんのお名前を掲載させていただきます。(順不同・敬称略。3月18日現在。なお、掲載を希望しないと申し出のあった方は掲載しておりません)

▼県庁支部

- 山口 耕司(管財課)
- 澁谷 昌二郎(調査統計課)
- 古館 慶之(科学・情報政策室)
- 瀬川 浩昭(ものづくり自動車産業振興室)
- 伊藤 啓治(農林水産部)
- 石田 享一(農林水産部)
- 内藤 俊喜(漁港漁村課)
- 佐々木 一彦(県土整備備備課)
- 伊勢 貴(県議事事務局)
- 皆川 典子(岩手県職員労働組合)
- 神長 三三(文化振興課)
- 船橋 聖一(産業経済交流課)
- 菊池 信幸(農林水産部団体指導課)
- ▼盛岡支部
- 大芦 洋悦(視聴覚障がい者情報センター)
- 岩 測 純(盛岡広域振興局県税課)
- 鈴木 洋幸(盛岡広域振興局保健福祉環境部)
- 後藤 賢弘(岩手県福祉総合相談センター)
- 及川 忠美(盛岡広域振興局林務部)
- 行方 啓師(盛岡広域振興局土木部)
- 泉 裕之(盛岡広域振興局)
- 千葉 恒樹(岩手県中央家畜保健衛生所)
- 渡辺 芳幸(盛岡農業改良普及センター)
- 千葉 潤(岩手県立産業技術短期大学校)
- 笹島 尚子(岩手県環境保健研究センター)
- 藤井 裕康(岩手県立産業技術短期大学校)
- 右京 隆二(岩手県農業研究センター畜産研究所)
- 佐藤 裕保(盛岡広域振興局土木部岩手土木センター)
- 小林 雄二(岩手県農業研究センター畜産研究所)
- 海上 長子(学事振興課・県立大)

- 小梨 茂(岩手県農業研究センター畜産研究所)
- 高橋 修(八幡平農業改良普及センター岩手町駐在)
- ▼花巻支部
- 桐田 孝行(県南広域振興局土木部遠野土木センター)
- 根子 善照(中部農業改良普及センター遠野普及サブセンター)
- 高橋 英之(県南広域振興局農政部遠野農林振興センター)
- ▼北上支部
- 本田 孝子(中部農業改良普及センター)
- 須貝 克晴(中部農業改良普及センター西和賀普及サブセンター)
- 佐藤 洋貴(岩手県農業研究センター)
- 鈴木 良則(岩手県農業研究センター)
- 佐藤 知己(岩手県立農業研究センター)
- 土屋 淑子(岩手県農業研究センター)
- ▼胆江支部
- 昆 秀博(県南広域振興局保健福祉環境部)
- 高橋 昭雄(県南広域振興局農政部)
- 鎌田 裕(県南広域振興局農政部農村整備室)
- 佐藤 幸文(県南広域振興局土木部)
- 及川 華奈(県南広域振興局農政部農村整備室)
- 大久保 博(県南広域振興局農政部)
- ▼一関支部
- 高橋 京子(県南広域振興局保健福祉環境部一関保健福祉環境センター)
- 小坂 敏行(県南広域振興局農政部一関農林振興センター)
- 佐藤 一哉(県南広域振興局農政部一関農林振興センター)
- 島山 俊行(一関農業改良普及センター)
- 皆上 和弘(一関農業改良普及センター)
- 佐藤 茂(県南広域振興局農政部一関農村整備センター)
- ▼気仙支部
- 太田 広美(沿岸広域振興局保健福祉環境部大船渡保健福祉環境センター)
- 日暮 忠(沿岸広域振興局経営企画部大船渡地域振興センター)
- 小室 寿明(沿岸広域振興局土木部大船渡土木センター)
- 小鷹 康方(沿岸広域振興局水産部大船渡水産振興センター)
- 齋藤 真希(人事課・陸前高田市派遣)
- 土野 恵美子(沿岸広域振興局農林部大船渡農林振興センター)
- 出沼 与夢(人事課・陸前高田市派遣)
- ▼釜石支部
- 一幡 和之(人事課・大槌町派遣)
- 高橋 敏晴(人事課・大槌町派遣)
- 中島 実(沿岸広域振興局土木部)
- ▼宮古支部
- 島 香聖子(沿岸広域振興局保健福祉環境部宮古保健福祉環境センター)
- 多田 誠(岩手県立宮古高等技術専門学校)

- 佐藤 正一(宮古農業改良普及センター)
- 平藤 互(沿岸広域振興局経営企画部宮古地域振興センター)
- 稲垣 孝教(沿岸広域振興局経営企画部宮古地域振興センター)
- 島山 安広(沿岸広域振興局水産部宮古水産振興センター)
- 栗屋 睦(人事課・田野畑村派遣)
- 山本 嘉裕(沿岸広域振興局土木部岩手土木センター)
- ▼久慈支部
- 佐々木 誠一(県北広域振興局林務部)
- 佐藤 利(県北広域振興局土木部)
- 小野寺 忠夫(県北広域振興局農政部農村整備室)
- ▼二戸支部
- 堤 隆(県北広域振興局経営企画部二戸地域振興センター)
- 大森 祐一郎(県北広域振興局農政部二戸農林振興センター)
- 十文字 康洋(県北広域振興局農政部二戸農林振興センター)
- 金森 靖(岩手県農業研究センター県北農業研究所)

2021新採用加入対策

一関支部で対策会議を開催

新採用歓迎昼食会を4月2日に開催予定



▲一関支部での対策会議の様子

3月17日、一関支部では新採用加入対策会議を開催した。支部長から、用意した弁当と朝食、前日の夜ご飯が同じだったことが飽きず

に食べられたことにかけて、「組合もずっと関わっていても飽きない・必要な組織」とあいさつ。

新採用歓迎昼食会を4月2日に開催すること、新採用と一緒に歓迎昼食会に参加していただく先輩組合員の確認をした。また、職場からも昼食会終了後職場に戻ってきた新採用に対して「組合の説明どうだった?」「や「加入しない?」といった声かけの協力をお願いした。

自治労岩手県本部県南支部(北上・胆江・一関支部が対象)主催の新採用職員ライフプランセミナーが4月10日(土)に水沢グランドホテルで開催される。こちらにも参加いただけるよう案内をお願いした。新採用の着任も目前。各支部でスタートダッシュできるよう事前の取組み準備をお願いする。

2月県議会 推薦県議・県政報告

3月8日・9日、佐藤ケイ子、木村幸弘、小西和子各県議が予算特別委員会において、県職労課題を取り上げ、改善を求めた。

【総括質疑3月8・9日】

【長期療養者の状況】(佐藤県議) 長期療養者の状況を踏まえ一層の対策を。

(総務部長) 病気の療養者は増加。産業医による個別面談等により健康管理対策に取り組み。欠員は20人程度まで減少見込み。人員確保の取り組みを進め、職場環境の実現に努める。

【早期退職者等の対応】(総務部長) 若手職員の退職者が増加傾向。原因は転職や家庭事情等と把握。(佐藤県議) 厳しい職場実態や処遇面の課題と聞いています。若年の退職増は由々しき事態。一層の対策を。

【県の組織体制】(木村県議) 職員体制の確保と、応援・派遣要員等を含む新年度以降の考え方は。(総務部長) 新採用職員や中途採用の実施に加え、他

武智 文子(県北広域振興局農政部三農林振興センター林務室) 佐々木 秀治(県北広域振興局農政部三農林振興センター林務室) ▼本部 筒井 信弘(岩手県立黒沢尻北高等学校)

皆川書記(本部)が 定年退職へ



県職労本部勤務の皆川典子書記が3月末をもって定年退職されます。

皆川書記は1981年6月25日本部書記に採用、県庁支部書記の経験も。約40年間、県職労運動の発展に寄与されました。その功績に感謝すると共に、今後とも一層の活躍を期待します。